

第2章

将来目標の設定



1. 将来目標

(1) まちづくりの重点目標

まちづくりの主要課題や近年の社会環境の変化、また村上市総合計画で示される将来都市像などをもとに、村上市のまちづくりにおいて今後特に力を置くべき重点目標を設定します。

■まちづくりの主要課題

【まちづくりの方向性に関する課題】

- 定住人口の維持確保
- 高齢化が進む中での快適な地域社会の形成
- 活力ある地域社会の形成
- 豊かな自然の保全と活用
- 市民と行政の協働のまちづくり

【個別具体の課題】

- 旧来の市街地における空洞化への対応
- 集落の活力維持
- 計画的で効率的な土地利用誘導
- 市民の利便性・安全性を重視した都市施設配置と適切な維持管理
- 市民の足となる公共交通など、移動環境の再編
- 市民と行政の協働によるまちづくりの推進

■村上市を取り巻く社会環境変化

財政難（社会保障負担増、社会資本投資余力減）
地球環境問題の深刻化（CO2 排出増、ゴミ問題、緑の減少）
安全安心な社会への期待（大震災や水害への不安、食の安全等）
高度情報化（インターネット等情報技術の飛躍的発展）
国際社会との共生（食料、経済、金融、環境等）

重点目標設定の視点

高齢化が進み、これまで地域を支えてきた産業や街が低迷、さらに環境問題も顕在化する中、市民誰もが将来に不安を感じている。これからは、**村上市の強み**を最大限に活かし、市民が夢を持って安心して暮らし続けられるまちづくりを進めることが重要。

■まちづくりの基本姿勢

今あるものを活かし、高齢者を含めた全ての人々が便利に安心して暮らし続けられる質の高いまち（コンパクトなまち）

「村上の強み」の要素

白砂青松・笹川流れ・お幕場・奥三面・三面川・荒川・岩船平野の農用地などの**自然環境**、武家町・商人町・寺町・城跡・塩谷・猿沢・小俣宿・鳴海金山などの**歴史文化**、北限の茶どころ・三面川の鮭・村上牛などの**食文化**、村上大祭・岩船大祭・瀬波大祭・人形さま巡り・あらかわ大祭・獅子踊り・神楽舞などの**まつりイベント**、その他温泉・公園・産業施設・港・高速道路・各種市民主体の取り組みなど。

※これまで地域にとってマイナスであった要素も柔軟な発想で貴重な「村上の強み」として活用していきます（例：荒川地区の風など）。

■村上市のまちづくりの基本理念(総合計画より)

- ◇「守る」：(自然と伝統を守り、歴史と郷土を愛するまちづくり)
- ◇「育む」：(人と文化を育み、ふれあいと活力のあるまちづくり)
- ◇「輝く」：(暮らしやすい社会を築き、優しさで輝くまちづくり)

■村上市の将来都市像(総合計画より)

「元気“^いeまち”村上市」

- ・元気：活力、快適、産業振興、輝き、魅力
- ・eまち(いいまち)
 - ：「住んでいいまち」(保健、福祉、安全、安心、教育)
 - ：「訪ねていいまち」(自然、歴史、伝統、文化、人情)
- ・e：Environment(環境)、Eternity(永続性)、Earnest(誠実)
Eco-economy(ecologyとeconomy：環境的に持続可能な経済)

■まちづくりの重点目標

社会の潮流が大きく変化する中で、村上市が今後「魅力あるまち」として持続的に発展していくため、「若者定着」、「高齢安心」、「交流拡大」、「住み心地」、「市民協働」を5つのキーワードとし、重点目標を設定します。

若者定住

重点目標1. 若者が生きづく魅力的な暮らしのある村上市

村上の未来を支える若者が住み続けたいような都市の魅力をつくる

高齢安心

重点目標2. 高齢者が安心して生き生きと暮らせる村上市

街でも集落でも高齢者が安心して暮らし続けられる都市をつくる

交流拡大

重点目標3. 多様な交流による地域や人とのつながりを活かす村上市

村上の地域資源を活かし、多くの人が訪れ、交流のある都市をつくる

住み心地

重点目標4. 歴史文化が薫る豊かな自然に満ちた快適な村上市

城下町などの歴史文化と豊かな自然環境を活用した心地よい生活空間をつくる

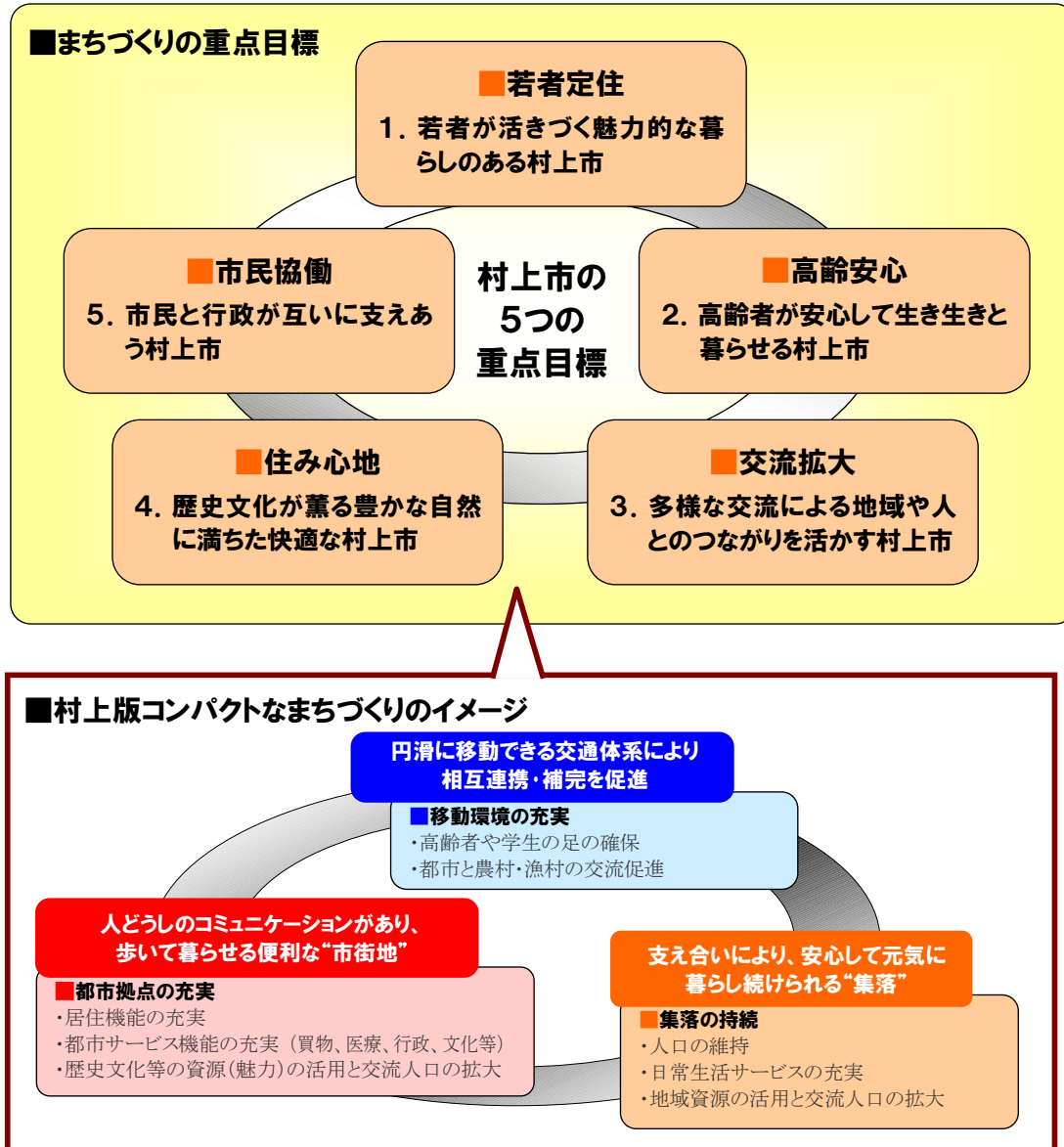
市民協働

重点目標5. 市民と行政が互いに支えあう村上市

市民と行政が互いに理解し支え合い、協働による持続可能な環境をつくる

(2) 都市の将来像

「まちづくりの重点目標」を実現するため、以下に示す「村上版コンパクトなまちづくり」の考えにもとづき、「市街地」と「集落」が連携しながら、高齢者も含めた市民が便利で安心して暮らせるまちづくりを目指します。



村上市の将来像（イメージ）

2. 将来フレーム

(1) 将来人口の設定

【人口推移】

村上市の人口は昭和 50 年以降、減少を続け、平成 17 年現在 70,705 人です。

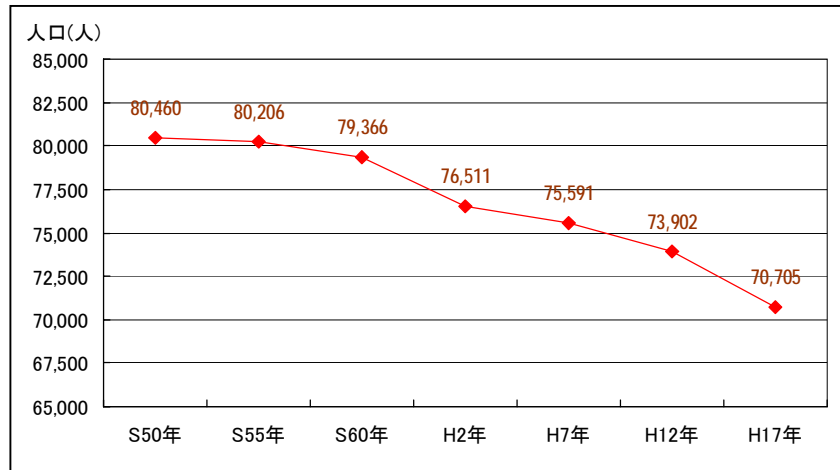


図 2-2-1. 村上市のこれまでの人口推移 資料：国勢調査

【コーホート変化率法による推計結果】

平成 12 年～17 年の推移をベースにした「コーホート変化率法」により村上市の将来人口を推計すると、10 年後の平成 32 年で 58,054 人、20 年後の平成 42 年で 48,762 人となることが予測されます。

【将来人口の設定】

ここでは、コーホート変化率法による推計値をベースにしながら、以下の政策努力による人口増加、および定住人口減少抑制を想定した上で、平成 42 年までの将来人口推計値を設定します。

①政策内容 1

- ・「住宅」を理由に転入する人口増を年間 44 人程度（約 20%分）促進する。

②政策内容 2

- ・「職業」を理由に転出する人口減を年間 127 人程度（約 20%分）抑制する。

【政策努力による成果を考慮した推計結果】

表 2-2-1. 村上市の将来人口設定値

(人)

区分	H17 (基準年)	H 22	H 27	H 32	H 37	H 42
コーホート変化率法による推計値		66,722	62,579	58,054	53,400	48,762
将来設定値 ※bに政策努力分を追加した結果	70,705	67,582	64,293	60,582	56,639	52,593
将来人口の設定値 ※ 100 の位で四捨五入		67,600	64,300	60,600	56,600	52,600

(2) 将来世帯数の設定

【世帯数・世帯人員の推移】

村上市の世帯数はこれまで増加傾向で推移しています。また、世帯人員は徐々に小規模化の傾向にあります。

平成 17 年現在の世帯数は 22,321 世帯、世帯人員は 3.17 人/世帯です。

表 2-2-2. 村上市これまでの世帯数・世帯人員推移

(人, 世帯, 人/世帯)

	S50	S55	S60	H02	H07	H12	H17
人口	80,460	80,206	79,366	76,511	75,591	73,902	70,705
世帯数	19,697	20,463	20,739	20,885	21,612	22,300	22,321
世帯増加数	—	766	276	146	727	688	21
世帯人員	4.08	3.92	3.83	3.66	3.50	3.31	3.17

※世帯人員は小数点以下第 2 位で四捨五入して表示

資料: 国勢調査

【将来世帯数の設定】

将来世帯数については、村上市のこれまでの世帯人員の推移実績にもとづくトレンド推計により将来世帯人員を推計（最も相関係数が高い一次近似式を採用）し、これで将来人口を除することにより将来世帯数を求めます。

結果として、将来世帯数は平成 32 年が約 22,780 世帯、平成 42 年が約 22,610 世帯となることが予想されます。

表 2-2-3. 村上市の将来世帯数設定値

(人, 人/世帯, 世帯)

	H17	H22	H27	H32	H37	H42
① 人口	70,705	67,600	64,300	60,600	56,600	52,600
② 世帯人員推計値	—	2.99	2.83	2.66	2.49	2.33
③ 世帯数 (①/②)		22,582	22,747	22,783	22,703	22,611
将来世帯数の設定値 ※ 10 の位で四捨五入	22,321	22,580	22,750	22,780	22,700	22,610

※世帯人員は小数点以下第 4 位で四捨五入して表示

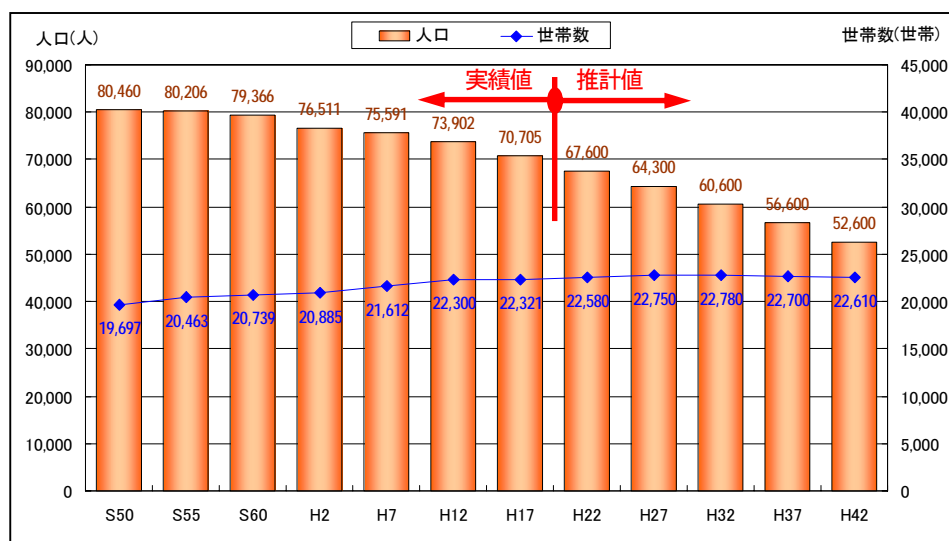


図 2-2-2. 人口・世帯数の推移と設定値